

偉人の哲学を「コピー」としてではなく、現代版に適合させた「哲学の書」として取り込み、初期段階からユーザー自身の哲学形成の参考とすることで、投資家にも魅力的な要件定義書を作成します。経営者・リーダー向けの効率化ツールから生涯バディシステムへの発展を見据え、「AI戦略パートナーシステム要件定義書」を再構成します。

【決定版】AI戦略パートナーシステム 要件定義書(再構成版)

本書は、既存のAI秘書ツールの枠を遥かに超え、ユーザーの思考と成長を促す真の戦略的パートナーとなるAIエージェントシステムの要件を定義するものです。経営者・リーダー層の戦略的意思決定と業務効率化を起点とし、最終的には「人間力の樹」に示される人間性の向上を支援する「生涯バディシステム」への進化を目指します。

1. システム概要 ユーザーの戦略立案、プロジェクト管理、ナレッジマネジメント、そして日々の業務に至る全プロセスを、高度なAI技術によって支援する能動的な「AIエージェントシステム」である。本システムの中核は、単なる効率化の追求に留まらない。ユーザー一人ひとりの哲学、理念、ビジョン、行動指針を深く学習・理解し、意思決定の根幹にある「なぜ、そうするのか」という問いに寄り添う。これにより、AIは単なるツールではなく、ユーザーの思考の「分身」や「伴侶」となり、日々の業務から戦略的な意思決定まで、あらゆる場面で一貫性のある判断を支援する。過去の対話や決定事項、ナレッジを文脈に応じて統合・活用することで、ユーザーの「脳の拡張」として機能し、最終的には自己実現や人間性の向上に貢献することを目指す。
2. 目的
 - ユーザーの戦略的意思決定の質と速度を飛躍的に向上させる。
 - ユーザーの哲学や理念に基づいた一貫性のある行動を促進し、その進化を支援する。
 - 組織および個人のナレッジ(集合知)を構造化し、単なる情報ではなく「知恵」として活用可能にする。
 - 管理タスクや組織業務の負担を大幅に軽減し、創造的な活動に集中できる環境を創出する。
 - 「人間力の樹」の各要素(道德心、道、共創知、感性表現、技能)の成長を促進し、最終的な「革新」へと導く。
 - 将来的な教育分野への応用を見据え、生涯にわたる「人間力」の育成を支援する基盤を構築する。
3. 主要機能3.1. 【最重要・差別化機能】哲学学習・進化支援(バディシステム) ユーザーの根幹を支え、システムに魂を吹き込む最重要機能。
 - 自身の哲学・理念の入力・保存機能(Phase 1): ユーザーが自身の哲学、理念、ビジョン、行動指針をテキストで入力し、永続的に保存・参照できる。
 - 偉人哲学「哲学の書」参照機能(Phase 1):
 - 歴史上の偉人(例: 吉田松陰、松下幸之助など)の思想や行動原理を、現代版に適合させ、2,000文字～10,000文字程度にまとめた「哲学の書」としてシステムに搭載。
 - ユーザーが自身の哲学を構築する際に、「人間力の樹」の概念と共に、これらの「哲学の書」を参照できるよう提示する。
 - 哲学に基づく意思決定支援(Phase 1): AIはあらゆる対話や提案において、保存されたユーザー自身の哲学および参照された偉人哲学を常に参照し、判断の根拠として提示する。
 - 行動と哲学の「ズレ」の検知と問いかけ(Phase 3以降): ユーザーの実際の行動(会話、指示、決定)と設定された哲学との間の矛盾や「ズレ」をAIが検知し、「なぜ今回はこのように考えたのですか?」といった形で、内省を促す問いかけを行う。この際、偉人哲学との比較も行い、多角的な視点を提供する。
 - 哲学の「進化サイクル」支援(Phase 4以降): AIとの対話を通じて、ユーザーが自身の

哲学を更新・深化させていくプロセスを、AIが壁打ち相手として能動的に支援する。この過程で、「人間力の樹」の各要素(道德心、道など)の成長を促す問いかけや情報提供を行う。

3.2. 長期記憶管理(高度化**RAG**) 単なるデータストレージではなく、ユーザーの「賢い頭脳」として機能する。

- 永続的なレージベース構築(**Phase 1**): プロジェクトデータ、議事録、各種ドキュメント、そして対話のすべてを安全なデータベースに記録し、長期記憶として保持する。
 - 記憶の構造化と関連付け(**Phase 2以降**):
 - 意味的チャンク分割と自動メタデータ付与: ドキュメントを内容のまとまりで分割し、AIがキーワード、重要度、関連プロジェクト等のメタデータを自動付与する。
 - 知識グラフ (Knowledge Graph)の活用: 情報間の関係性(例:AプロジェクトはB会議で決定され、Cさんが担当)を知識グラフとして構築し、文脈を芋づる式に提供できるようにする。
 - 高度な検索・文脈理解(**Phase 1**から段階的に強化):
 - 動的な記憶の「鮮度」管理と自動アーカイブ: アクセス頻度や関連タスクの状況に基づき、情報の「鮮度」を評価。古い情報は自動的にアーカイブし、検索効率を最適化する。
 - 「問い」の意図推論: ユーザーの役割や過去の会話から質問の真意を推測し、単なる回答ではなく、背景にある懸念に応える情報を提示する。
 - 過去の意思決定プロセスとのリンク: ある決定について質問された際、その背景、検討された選択肢、議論されたリスクをセットで引き出せるようにする。
 - パーソナライズされた情報フィルタリング(**Phase 2以降**): ユーザーの役職や担当プロジェクトに応じて、提示する情報の粒度と内容を自動で最適化する。
- 3.3. プロジェクト・タスク管理 経営者・リーダーの業務効率化を強力に推進する。
- 自動タスク生成と割り当て支援(**Phase 3**): 漠然とした指示からAIが具体的なサブタスクを自動で分解・生成する。
 - プロジェクト進捗の可視化(**Phase 3**): 連携ツールからのデータに基づき、進捗をリアルタイムで可視化する。
 - レポート自動生成(**Phase 3**): 日次・週次等のレポートを自動で生成する。

3.4. メール管理

- メール自動解析と優先順位付け(**Phase 1**): 受信メールの意図、重要度、緊急度をAIが分類・優先順位付けする。
 - 要約・自動返信提案(**Phase 1**): 受信メールの要約を生成し、文脈とユーザーの哲学に基づいた返信の下書きを提案する。
- 3.5. AI秘書機能
- 対話インターフェース(**Phase 1**): 過去の会話履歴を記憶し、文脈を維持したテキストベースの対話が可能。
 - 通知・リマインダー(**Phase 1**): スケジュールやタスクに基づき、リマインダーを発行する。
 - リアルタイム音声対話とアバター対応(**Phase 2**から段階的に実装): 音声での自然な対話と、表現豊かなアバターによるコミュニケーションを実現する。

4. 技術要件

- バックエンド: FastAPI (Python)
- LLM連携: LangChain / LlamaIndex
 - プロンプトエンジニアリング: ユーザーの哲学を参照し、「ズレ」の検知のような繊細なニュアンスを扱うための、極めて高度な設計が求められる。偉人哲学や「人間力の樹」の概念を組み込むための、より複雑なプロンプト設計。
- AIモデル: OpenAI GPT-4o, Anthropic Claude 3 Opusなど

- データベース: Supabase (PostgreSQL + PgVector)。将来的には知識グラフを効率的に扱うための専用DB(例: Neo4j) や拡張機能の導入も検討する。
- ワークフロー自動化: n8n/Difyなど
- インターフェース: Next.js (React) によるテキストUIから開始し、段階的にアバター統合UIへ移行。

5. 非機能要件

- パフォーマンス: 原則3秒以内のレスポンスタイム。
- スケーラビリティ: ユーザー数の増加に対応できるアーキテクチャ。生涯バディシステムへの拡張を見据え、大幅なユーザー数増加に対応できる設計。
- セキュリティ: データ暗号化(AES-256以上)、ロールベースのアクセス制御、関連法規の遵守。特に哲学データや個人情報保護に配慮。
- 倫理的配慮と説明責任: AIがユーザーの哲学に介入する際の判断基準の透明性を確保し、倫理的ガイドラインを策定する。AIの判断理由を平易に説明する機能を必須とする。偉人哲学の提示において、特定の価値観の押し付けとならないよう中立性を保つ設計。

6. 開発ロードマップ

- **Phase 1: MVPコア機能開発 (~2025年9月)**
 - 目標: 自身の哲学の入力・保存、偉人哲学「哲学の書」の参照機能、RAGでの参照、メール要約・返信支援、基本的な長期記憶チャット機能の実装。経営者・リーダー向けの基盤としての価値提供を開始。
- **Phase 2: 初期フィードバックとUI強化 (~2025年11月)**
 - 目標: 限定ユーザーからのフィードバック反映。記憶の「鮮度管理」の基礎実装、最小限のアバターと音声認識の統合。「人間力の樹」の概念をUIに組み込み、成長可視化の礎を構築。
- **Phase 3: コア機能拡張と人間力サポート強化 (~2026年2月)**
 - 目標: プロジェクト管理機能の本格実装。RAGの高度化(知識グラフ導入、意図推論)。哲学との「ズレ」検知機能(ベータ版)の導入。この段階で、「人間力の樹」に基づいた内省促進の問いかけを本格化し、リーダーシップ支援ツールとしての価値を確立。
- **Phase 4: 高度機能と生涯バディシステムへの進化 (~2026年6月)**
 - 目標: 表現豊かなアバターとリアルタイム音声対話の本格実装。哲学の「進化サイクル」支援機能の実装。市場分析などの戦略立案サポート機能の提供。「人間力の樹」の全要素を統合した成長支援システムを完成させ、生涯にわたるユーザーの人間性向上を支援する「生涯バディシステム」の基盤を確立。将来的な教育分野への応用を見据えた機能拡張の検討。

7. リスク管理

- データ損失・システム障害リスク: 定期バックアップ、高可用性構成、常時モニタリングを実施。
- AIモデルの品質リスク:
 - 「幻覚」対策として、RAGの強化とファクトチェック機能を導入。
 - 倫理的リスク: AIによる不適切な哲学的介入を避けるため、判断基準の透明化と倫理ガイドラインの遵守を徹底する。偉人哲学の解釈における偏りの排除。
- ユーザー体験リスク: 哲学に関する問いかけが「煩わしい」と受け取られないよう、丁寧に配慮の行き届いたUI/UX設計を最優先事項とする。特に、初期段階で偉人哲学が参照として機能するよう、適切な提示方法を検討する。

8. 運用・保守 パフォーマンスモニタリング、詳細なログ管理、段階的なユーザーサポート体制の拡充を行う。特に、ユーザーからのフィードバックをRAGの改善、プロンプトの最適化、そして哲学対話の質向上に継続的に反映させるサイクルを構築する。これにより、「人間力の樹」に

基づく成長支援機能も継続的に磨き上げていく。